

もっと知りたい
ふるさと
②8

塚穴古墳に
魅せられて

塚穴古墳は、稲荷山篠山の標高五一〇メートル通称「陣ヶ窪」の山腹にあり、直径約一二メートル高さ四・五メートル、南に開口する横穴式石室を設けた古墳時代後期（六〜七世紀）の築造と考えられる。

埋葬施設の横穴式石室は羨道部（石室への通路）の一部が壊れているが、玄室（棺を納めたところ）はよく残っており、長さ五メートル、奥壁幅二・七メートル、高さ二・五メートルの羽子板状の両袖型の横穴式石室となっている。奥壁は大石を二枚



古墳入り口にできた水筈

並べ、その上に横長の石をのせている。側壁は、下部に横長の大きな石を二段積み、その上に小さな石を四段積み、天井は大きな石、五石で石室を築いている。羨道部は長さ約二・七メートルほど現存しており、幅一・七メートル、高さ一メートルほどである。本古墳からの副葬品などはなく、正確な築造年代や埋葬された人物については不明である。（千曲市教育委員会現地案内板を参考）

昨年七月頃より、塚穴古墳に魅せられて、夏の暑い日古墳の雑木、雑草等の刈り取りをした。葛の木・アレチウリ・藤つるが生い茂る中には、たぬき等の巣が四つもあった。それらも全部取り払った。消防署の許可をいただき、平成二十三年度の区長の皆様のお力で何回かに分けて燃やし、綺麗にした。草を刈る中で、塚穴古墳には、日本古来種の日本タンポポが数百本あることも分かり、「この古墳を日本タンポポの里にしたら」とい

う話になった。今年もタンポポの種を古墳全体に蒔いた。日本タンポポの他に、山スミレ等も移植し始めたところである。近くには、長野市の「越将軍塚」があり、塩崎地区の方が年に何回か草刈りをして管理している。塚穴古墳も越将軍塚に負けられないようならば、飛鳥時代の先駆者が機械の無い時代にこのようなすばらしい古墳を残してくれた。飛鳥歴史公園内の石舞台古墳は、入場料を取っている。塚穴古墳は少し小さいが、見学無料で誰もが自由に見ることができ

一月の厳寒期は、古墳の入り口に十五本程度の氷筈（ひょうすゐ）ができ、初めて百人程の人たちが見学に訪れた。雪が積もれば、動物の足跡が幾つも見られる。春初めは、オオイヌノフグリ、付近の畑で栽培している桜、ボケでお花見ができる。五月は、日本タンポポのお花見ができる等、古墳に来ればもう



古墳入り口にて、見学者を撮影

一つの楽しみ方ができる。古墳の頂上から眺める姨捨山や千曲川の流れ。古代の人たちはいい場所を選んだものである。今の古墳の住人はコウモリで、十五匹程度住んでいる。現地に行く時は、コウモリを驚かせないようにしてほしい。千曲市には、約四百八十基の古墳・史跡があるが、すべての古墳・史跡が次の代まで大切に引き継ぎたいものである。塚穴古墳をここまで私たちに手を入れさせていただいた千曲市教育委員会文化財センターの皆様には、心より感謝申し上げます。

稲荷山 小林 和夫